長谷川金網 株式会社

織る技術を追求し時代に必要な金網を提供

納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンリーワン技術
メイドインジャパン
試作可小ロット
量産対応



繊細さがカギを握る製造現場

業務内容 国産金属線と最新設備で高品質や高機能を実現

ハイメッシュと呼ばれる非常に目の細かい金網を製造する業者として、50年にわたって高品質の金網一筋に取り組んでいる。ろ過や異物除去などを目的とするフィルターとして、ハイメッシュは、自動車や産業機械、化学プラントなどさまざまな産業分野で使われている。いずれの分野でも高い品質や機能性が求められるため、強度や耐食性に優れた国産の金属線のみを使用。最新の織り機に、長年受け継いできた技術を組み合わせたものづくりで信頼を勝ち得てきた。量産はもちろん、「10cm角の金網を1枚だけほしい」という顧客の要望にも柔軟に応える。

強み 品質保持に根気強く対応

ハイメッシュの金網とは、1インチ（25・4㎜）角に10,000個程度以上の網目がある金網を指す。そこに使われるステンレスなどの金属線の線径は、細いもので0・025㎜ほど。長谷川真司社長は「製造現場では繊細さこそが生命線」と話す。網目が細かいほど金属線を織り機にセットする準備に時間がかかる。繊細な作業ゆえにその工程では金属線が切れるなど、長ければ4―5カ月を要することもあるという。長谷川社長は「金属線が切れた場合は原因を徹底的に追究し、安定操業を目指す。品質を保つには根気強さが大事」と強調する。細い金属線の扱いには細心の注意を払い、こまめに検査を行うことで品質を保ち、顧客の高い信頼を得ている。

用途開発 立体模型やカバーなど新たな可能性を模索

「普段目につかない場所に使われている金網の特性や美しさを多くの人に知ってもらいたい」という長谷川社長の思いから、平成22年には「メタル・ファブリック」を開発。工業用金網に加工を施して、繊維製品のような風合いを出したり、格子のような柄をつけるなどして照明器具のカバーや椅子の座面用材料として販売している。

また、創作立体切紙作家・大東守氏とコラボし、金網を切ったり折ったりして作る立体模型を商品化。金属素材の質感を生かした立体模型の恐竜や動物の姿には迫力があり、さらなる金網の可能性を広げている。

今後の展望 試作機導入で先端分野の新たな開発に挑戦

平成28年には金網業界では珍しい幾何学模様などのデザイン金網を織る機能を搭載する織機を導入した。2台導入したうちの1台は、小サイズ・小ロットの金網を製造する試作専用機として活用しており、短納期・低価格対応が可能。導入以降、「新しい金網の開発が可能だと顧客にも広まり相談が増えた」という。

近年、医療や航空・宇宙、電子機器など先端分野での精密金網の使用事例が増加し、これらの分野では要望も高度化している。長谷川社長は「時代に必要とされる製品を創造していく。新しいテーマに挑戦し続けることで、会社も人も成長していきたい」と目標を語る。



織り機が並ぶ工場



金網を使った立体模型

当社の歴史



昭和43年に父の長谷川義明が大阪市平野区で創業したのが当社のスタートです。その後、大阪府松原市への工場移転を経て、業務拡大にともない平成25年、現住所に自社工場を建設しました。現在、工業用金網、金網加工品、デザイン金網の製造、試作品開発の4本柱で事業を展開しています。

代表取締役 **長谷川 真司さん**

http://www.hasegawa-kanaami.com/

主な事業内容
精密金網、金網加工品、デザイン金網の製造

主な取引先(納入先)
自動車部品メーカー、産業機械メーカー、金属系商社など

●住　所　〒581-0043 八尾市空港1-182
●TEL　072-990-5450
●FAX　072-990-5451
●創　業　昭和43年4月
●設　立　平成24年4月
●資本金　500万円
●従業員　4名